河合町文化財調査報告書　第18集

長楽遺跡 Ⅲ

２００６年３月

（奈良県北葛城郡）

河合町教育委員会

報告書本文中に下記の誤りがありましたので、訂正をお願いします。

正誤表

	誤	正
本文8ページ　下から11行目	埴輪と特徴から、	埴輪の特徴から、
本文8ページ　下から7行目	可能背	可能性

長楽遺跡Ⅲ

２００６年３月

（奈良県北葛城郡）

河合町教育委員会

例　　言

1．本書は2005（平成17）年度に河合町教育委員会が国庫補助金・県費補助金を受けて実施した長楽遺跡第３次調査の発掘調査報告書である。

2．現地調査は平成17年６月７日に開始し、平成17年６月17日に終了した。

3．調査組織は次のとおりである。

調査主体　　河合町教育委員会

調査担当者　河合町教育委員会事務局　生涯学習課　文化財保存係　吉村公男

調査補助員　岡田雅彦（奈良大学大学院）、西村慈子、小林美佐子

調査事務局　河合町教育委員会事務局　生涯学習課　文化財保存係

教育長･川邊興司　教育理事・藤岡和成　課長・木村光弘　補佐・梅野修治　係長・吉村公男

主事・枚本光清（生涯学習第１係）、木村浩章（生涯学習第１係）

4．発掘作業は有限会社ワークに委託した。

5．遺構の写真は吉村が撮影した。遺物写真の撮影には王寺町教育委員会岡島永昌氏の協力を得た。

6．本書を作成するにあたり下記の諸機関並びに諸氏のご指導・ご協力いただいた。ここに記して謝意を表する。

奈良県教育委員会、奈良県立橿原考古学研究所、王寺町教育委員会、松井米蔵、越智修、米山英、福西貴彦、横澤慈、岡島永昌、櫻井恵　（敬称略、順不同）

7．図１は国土地理院発行の1：25,000地形図「信貴山」（平成13年７月１日発行）及び「大和高田」（平成14年４月１日発行）をもとに作成した。図２は河合町発行の１：2,500河合町全図１・3（平成16年３月修正版）をもとに作成した。

8．土層の土色は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版標準土色帖22版』に拠った。

9．発掘調査により出土した遺物、及び図面・写真等の記録類の全ては河合町教育委員会で保管している。

10．遺物の整理及び本書の作成は吉村、岡田、西村、小林が行った。

11．本書の執筆は吉村が行った。

本　文　目　次

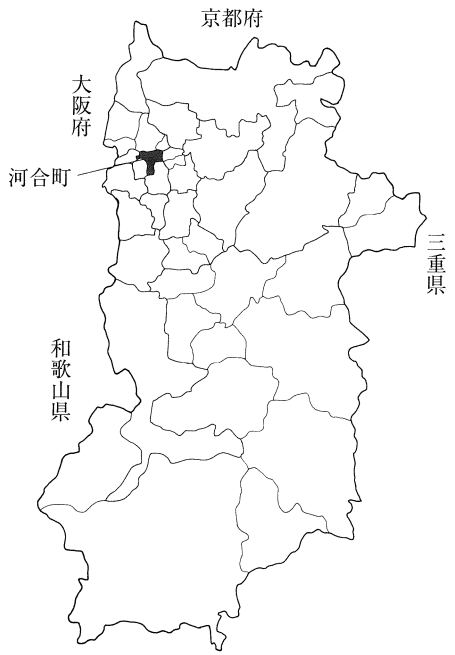
（1）はじめに……1
　i 調査の契機と経過
　ii 位置と環境
（2）遺構……3
（3）遺物……4
（4）まとめ……8

挿　図　目　次

図1　長楽遺跡第3次調査地と周辺の主要遺跡……2
図2　長楽遺跡第3次調査地と周辺の遺跡分布図……3
図3　長楽遺跡第3次調査区配置図……4
図4　長楽遺跡第3次調査区平面図及び土層断面図……5
図5　長楽遺跡第3次調査出土遺物……7

図　版　目　次

図版1　長楽遺跡第3次　①発掘調査前（東南から）　②遺構検出状況（東から）
図版2　長楽遺跡第3次　①完掘状況（東から）　②完掘状況（北から）
図版3　長楽遺跡第3次　出土遺物（外面）
図版4　長楽遺跡第3次　出土遺物（内面）



（1） はじめに

ⅰ 調査の契機と経過

長楽遺跡は、「奈良県遺跡地図番号10－Ｂ－30」「河合町遺跡地図番号35」として周知されている遺物散布地である。長楽遺跡では過去に２回の発掘調査が実施されており、今次の調査を第３次調査とする。

第１次調査は、平成４年度に長楽公民館の南側で専用住宅建設に伴う緊急調査を行った。第１次調査地では包含層中から石帯丸鞆が出土している。石帯丸鞆は通称「紀伊の白石」と呼ばれる材質であり、下級役人の着用したものと見られる。第１調査地の北側が高くなっており、現在の春日神社や公民館の周辺に「小東庄」関連の荘館等施設の存在が想定される。

第２次調査は、平成７年度に実施した春日神社南側に沿って通る町道の拡幅工事に伴う発掘調査である。この調査では、溝埋土から埴輪破片が出土した。埴輪の出土と地形の観察から、春日神社が古墳を利用して造営されている可能性が考えられるようになった。

今次の調査は、長楽遺跡内において専用住宅の建設が計画されたことにより工事に先立つ緊急調査として実施したものである。調査時にはすでに盛土がなされ駐車場及び畑として使用されていたが、基礎部分に杭を入れる設計であった。事業者と協議の結果、建物の基礎を構成する杭の安定を確保するため、掘削深度が1.5m以内であれば、建物の範囲を全面的に調査するが、それよりも深く掘削すると建物の安定が確保できないので、掘削位置を建物位置からずらして調査を行うこととなった。

そこで調査の方法としては、まず、専用住宅建設位置の南側に調査トレンチを設け掘削を行い、その結果によって建物建設位置での調査を行うこととした。トレンチは専用住宅建設位置から８ｍ南に設定し、東西7.5m、南北3.5mとした。調査の過程で南北方向にやや深い溝が検出されたのでその状況を確認するため北側に東西４ｍ、南北３ｍの拡張を行った。

当初に設定した調査とトレンチで検出された遺構は中世以降の耕作に伴うものであると考えられること、掘削深度が1.5mを超えることが判明し、工事に与える影響も踏まえた協議の上、結果として、住宅建設位置での調査は実施していない。

ⅱ 位置と環境

長楽遺跡は河合町の北東部に広がる平地部の南部、大字長楽に所在する。北の宮堂遺跡、南の箸尾遺跡との間にひろがる遺物散布地を長楽遺跡としている。また、北側には８基の古墳が一括で国指定史跡となっている大塚山古墳群があり、西方には飛鳥時代に創建された長林寺がある。

地理的には馬見丘陵から東側に延びる尾根が平野に変換していく地点の微高地、不毛田川・曽我川に面する地点に春日神社が位置しており、調査地はその春日神社の東側の平地部、不毛田川に接した場所である。

調査地と春日神社の間、調査地より１段高い部分に長楽寺があったと伝えられている。この寺は

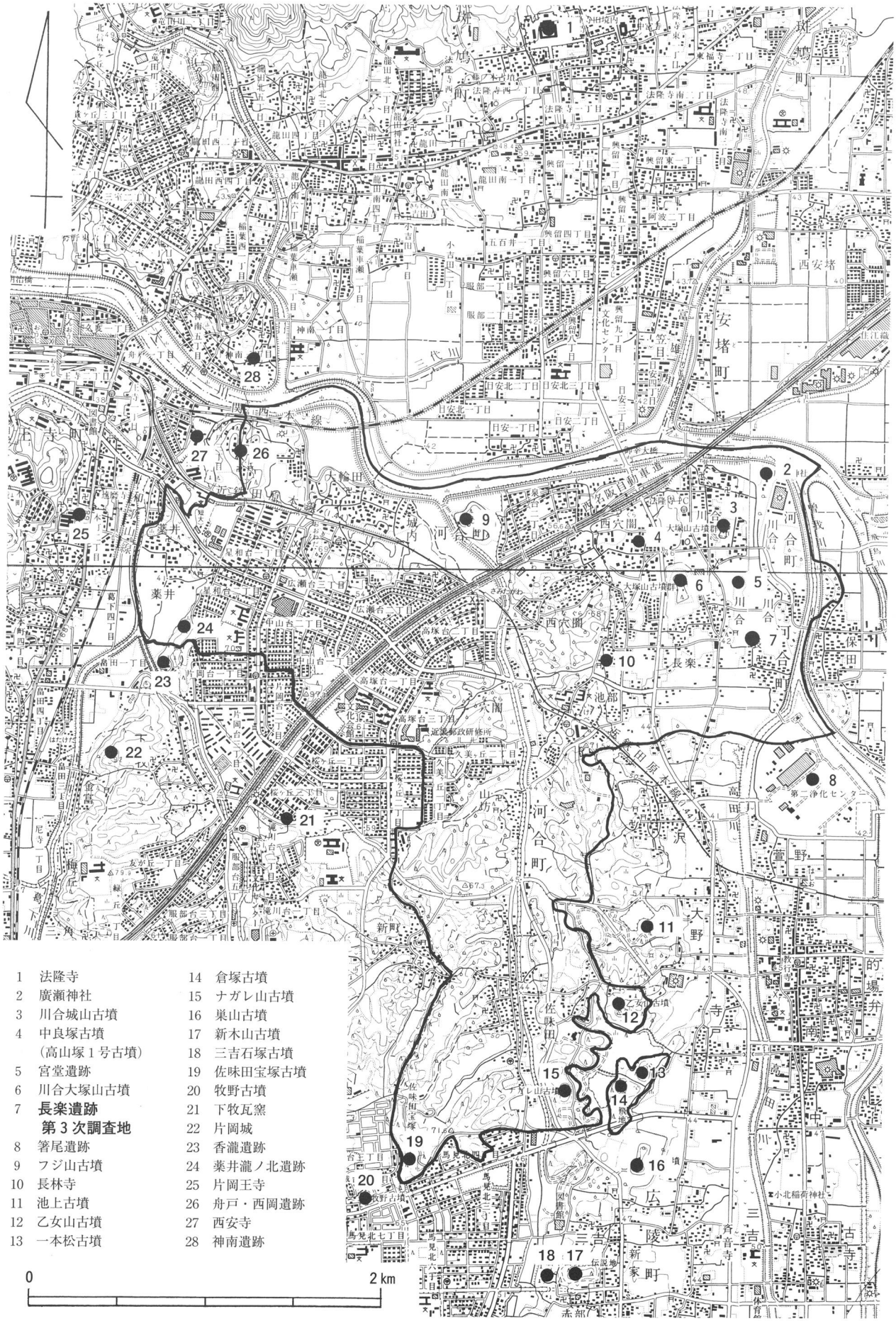
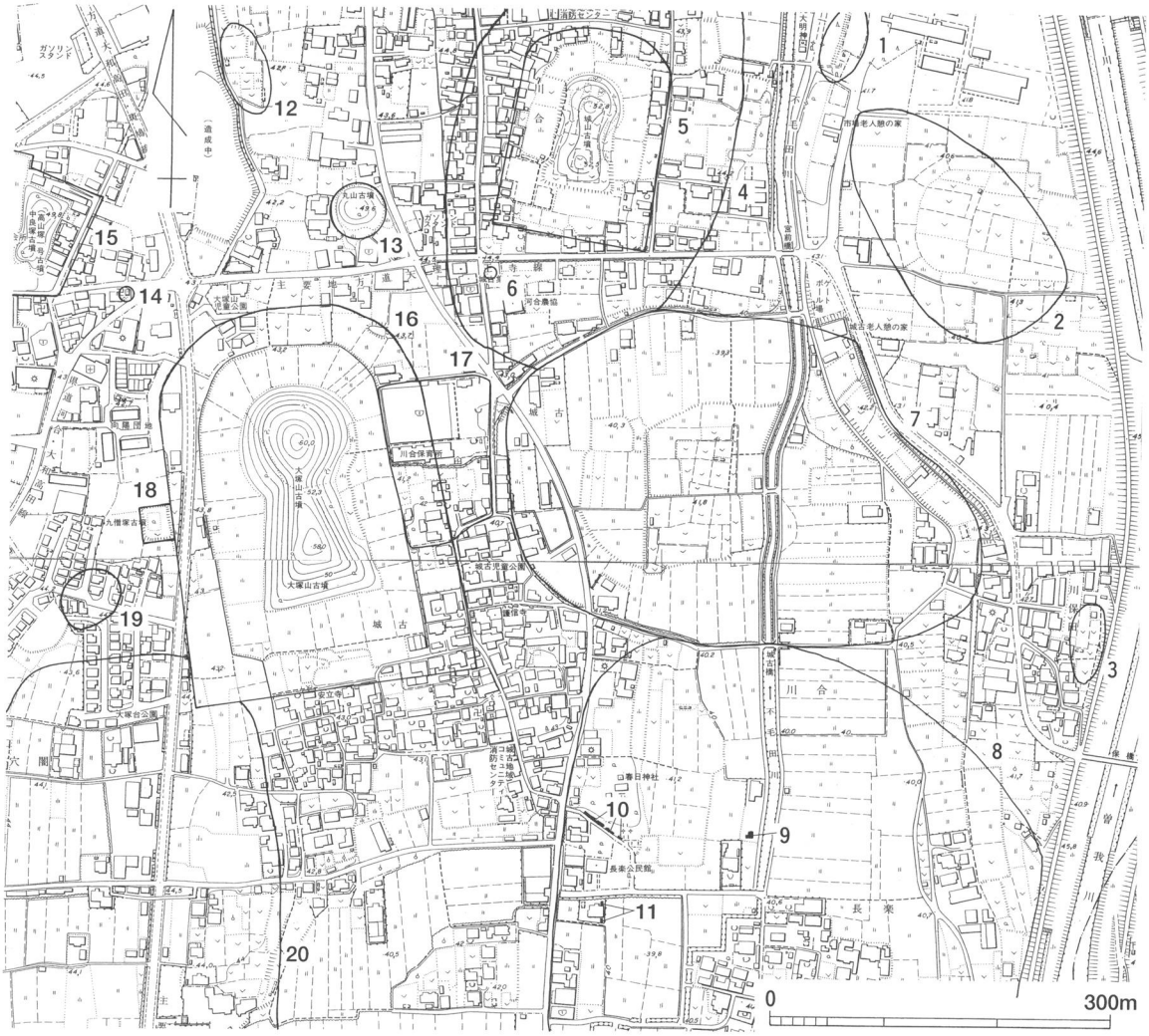


図１　長楽遺跡第３次調査地位置図



1　遺物散布地（奈良県遺跡地図10－B－76）
2　遺物散布地（奈良県遺跡地図10－B－77）
3　遺物散布地（奈良県遺跡地図10－B－104）
4　遺物散布地（奈良県遺跡地図10－B－20）
5　川合城山古墳
6　古墳伝承地（奈良県遺跡地図10－B－75）
7　宮堂遺跡
8　長楽遺跡
9　長楽遺跡第３次調査地
10　長楽遺跡第２次調査地
11　長楽遺跡第１次調査地
12　遺物散布地（奈良県遺跡地図10－B－72）
13　川合丸山古墳
14　古墳伝承地（奈良県遺跡地図10－B－78）
15　中良塚古墳（高山塚１号古墳）
16　川合大塚山古墳
17　居場垣内遺跡（廣瀬神社神主屋敷）
18　九僧塚古墳
19　穴闇隅田遺跡
20　遺物散布地（奈良県遺跡地図10－B－31）

図２　長楽遺跡第３次調査地と周辺の遺跡分布図

平安時代末には東大寺末寺であり、室町時代には興福寺一乗院の末寺として史料にその名が見える。また、長楽遺跡から西側一帯が東大寺領荘園として知られる「小東庄」にあたる。

（２）遺構

調査区の層序は基本的には盛土、現代の耕作土層、中世～近世の耕作土層の３層である。図４の土層断面図の第１層が盛土、第３層が現在の耕作土層である。第14層は中世の遺構を埋めた土層であり、第６層が包含層である。

今次の調査で検出した遺構は溝及び土壙である。溝は東西方向の溝（遺構番号１・２）と南北方向の溝（遺構番号４・５・６・10・12）がある。南北方向の溝はいわゆる素掘り溝（遺構番号４・５・６・12）とその他の溝（遺構番号10）である。

切り合い関係から溝10が最も古く、次いで東西方向の溝１・２、東西方向の溝を切る形で南北方向の素掘り溝４・５・６・12が形成されている。

土壙（遺構番号７・８・９・14・29等）はそれぞれ不整形で規格的なものではないようである。明瞭な柱穴のような遺構ではない。北拡張区で検出された土壙７・８・９・14・29等の埋土は暗褐色砂質土（土層図14層）で溝10の埋土と同じであり、これらは同時期に併存していたものと思われる。土壙７・８・９・14・29、溝10ともに埋土中に包含される遺物から中世以降に形成されたものと考えられる。

溝10は今次の調査で検出された溝の中で最も規模の大きい溝である。東側はトレンチの東壁に重なる。幅は上面で約80cm、底面で約50cm、深さ約20cmで断面形は逆台形を呈している。底面のレベルは南端で標高38.852m、北端で標高38.822mであり、南から北に傾斜している。水路として掘削された溝かどうかの確証は得ないが、雨水は北に向かって流れていたようである。これは地形に沿う形であり、東側を流れる不毛田川の流れと平行している。

溝10及び土壙７・８・９・14・29等が埋没した後に、溝２が形成されている。溝２の埋土は調査区東壁土層断面図の第12層である。溝２に並行する溝１についても、その埋土が南壁土層断面図の第９層及び第10層の黒褐色砂質土であり、おそらく溝２と同時期に形成されたものと思われる。

溝４は溝２の埋没後に形成された溝で、幅24cmで、断面はＵ字形を呈する。溝４の埋土は第６層（包含層）であり、この層からは近世陶磁器が出土しており、近世以降に形成されたものと思われる。

遺構番号11・28は検出面では柱穴状の様子を呈していたが、掘り進める過程では掘り方が判然とせず、柱穴では無いようである。

今回検出した溝・土壙はすべて中世以降に形成された遺構である。溝10は幅が広い溝であり、他の溝とは性格が異なることは考えられるものの、耕作に関わるものと思われる。

図３　長楽遺跡第３次調査区配置図

（３）遺物

今回の調査では遺物包含層からさまざまな種類の遺物が出土した。縄文土器と見られる破片や石器製作の際にできたと見られる剥片、埴輪、須恵器、土師器、瓦器等が出土している。

遺構内から出土した遺物は小破片が多く、良好に形状を復元できるものはない。しかしながら、

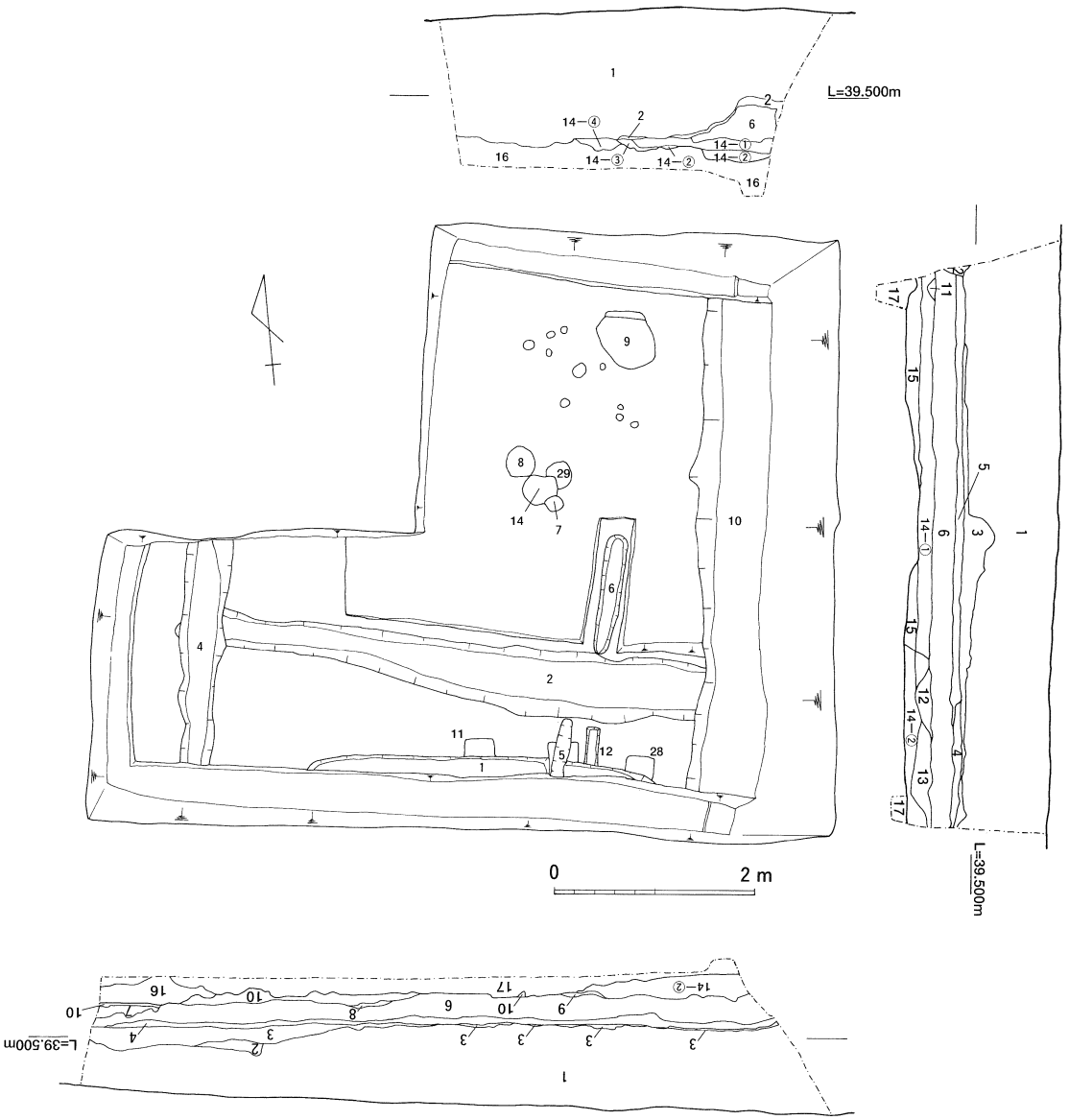


図４　長楽遺跡第３次調査区平面図及び土層断面図

層位番号	土色帖記号	土色帖色名	土質	備　　考
1				現代盛土
2	2.5Y3/2	黒褐色	粘質土	３～５㎜の砂粒が全体に少量混じる。径60㎜の礫あり。しまり悪い。鉄分沈着。
3	7.5Y4/1	灰色	砂質土	３～５㎜の砂粒が全体に少量混じる。ビニール混入。鉄分沈着。耕作土。
4	2.5Y4/2	暗灰黄色	砂質土	３～６㎜の砂粒が全体に少量混じる。鉄分沈着。炭化物混じる。
5	5Y4/2	灰オリーブ色	砂質土	３～７㎜の砂粒が全体に少量混じる。鉄分沈着。炭化物混じる。固くしまる。
6	2.5Y4/2	暗灰黄色	砂質土	３～５㎜の砂粒が全体に混じる。４より少ない。鉄分沈着。炭化物混じる。４よりやや青み強い。
7	10YR4/4	褐色	砂礫土	鉄分沈着。
8	2.5Y3/2	黒褐色	砂質土	鉄分沈着。
9	10YR4/4	黒褐色	砂質土	14－②層と17層の混在層。鉄分沈着。
10	2.5Y3/2	黒褐色	砂質土	３～５㎜の砂粒が少量混じる。
11	5Y3/2	オリーブ黒色	砂質土	鉄分沈着。
12	10YR3/1	黒褐色	砂質土	３～５㎜の砂粒が全体に多く混じる。14－①との混在層。
13	7.5YR3/4	暗褐色	砂質土	３～５㎜の砂粒が全体に混じる。下半部に15層が混じる。
14－①	10YR3/3	暗褐色	砂質土	３～５㎜の砂粒が全体に多く混じる。上半部に炭化物多く含む。
14－②	10YR2/2	黒褐色	砂質土	３～６㎜の砂粒が全体に多く混じる。14－①層よりも基本となる土が粗く、炭化物の混じり少ない。
14－③	10YR3/3	暗褐色	砂質土	１～２㎜の砂粒、全体に少量混じり、2.5Y4/2暗灰黄色粘質土ブロック土含む。
14－④	2.5Y4/6	オリーブ褐色	砂質土	３㎜の砂粒ごく少量混じる。10YR2/2黒褐色砂質土のブロック土含む。
15	10YR4/4	褐色	粘質土	２～３㎜の砂粒が全体に少量混じる。地山土混じる。5Y3/1オリーブ黒色粘質土混在層。
16	10YR4/4	褐色	砂質土	３～５㎜全体に多く混じる。地山。
17	2.5Y5/6	黄褐色	粘土	下部は10YR5/2オリーブ灰色粘土。地山。
18	10YR4/6	褐色	砂質土	基本の土は細砂。鉄分沈着。
19	10YR4/1	褐灰色	砂質土	鉄分沈着。
20	2.5Y3/2	黒褐色	砂質土	鉄分沈着。３～５㎜の砂粒、全体に少量混じる。しまりが悪い。
21	5Y3/1	オリーブ黒色	砂質土	鉄分微量沈着。２～３㎜の砂粒。全体に少量混じる。
22	2.5Y3/2	黒褐色	砂質土	鉄分沈着。５㎜の砂粒。ごく少量混じる。
23	10YR3/1	黒褐色	粘質土	鉄分沈着。１㎜の砂粒。全体に多く混じる。
24	7.5GY3/1	暗緑灰色	粘質土	鉄分沈着。
25	2.5Y3/2	黒褐色	砂質土	鉄分沈着。３～５㎜の砂粒、全体に多く混じる。

長楽遺跡を理解する上で示唆に富むものが多く、それらを掲載する。

縄文土器（図５－１）

拡張口縁と考えられる破片であるが、磨耗著しく文様は確認できない。わずかに沈線状の文様と考えられるものが見られる。形態等の特徴から後期初頭に位置づけことが適当と思われるものの根拠に乏しい。包含層（遺構面直上）内出土。

石器（図版３・４－19・20）

２点とも石材はサヌカイトで、石器製作工程で生じた剥片である。20には原礫の風化した表面が見られる。２点とも包含層内の出土であるが、19は遺構面直上からの出土である。

埴輪（図３－15～17）

朝顔形埴輪の口縁部及び円筒埴輪等の円筒形に復元できる個体の体部・基底部が出土している。

15は朝顔形埴輪の口縁部で凸帯部での復元径は41.2cmを測る。内面はナデ調整、外面はタテハケ調整である。色調は赤褐色を呈している。

16は円筒埴輪等の円筒形部分の体部。内面はナデ調整、外面はヨコハケ調整である。色調は赤褐色を呈している。

17は円筒埴輪等の円筒形部分の基底部。内面はナデ調整、外面はタテハケ調整である。色調は赤褐色を呈し、部分的に灰白色部分が見られる。

15・17は包含層内、16は排土からの出土である。

須恵器（図５－18）

甕。外面には平行タタキ。内面には明瞭な当て具痕は観察できない。素掘り溝（遺構番号２）の埋土中からの出土である。

土師器（図５－2～9・11・13）

２は台付甕様の器種の台部である。土壙（遺構番号14）の埋土中から出土。

３～７は小型皿で、３・４は「て字状口縁」の小型皿である。

３は復元径9.0cm、復元器高1.1cmを測る。色調は赤褐色を呈し、胎土には多量の雲母を含んでいる。

４は復元径9.0cm、復元器高1.1cmを測る。色調は赤褐色を呈し、胎土は砂粒が多く含まれる。

５は復元径10.2cm、復元器高0.9cmを測る。口縁部がほぼ水平方向に伸びる。色調は赤褐色で胎土には少量の細砂粒を含む。

６は復元径8.8cm、復元器高1.2cmを測る。色調は白灰色を呈し、稜線が明瞭で、口縁端部は垂直に立ち上がる。

７は唯一完形に近い遺物である。直径は9.7cm、器高1.4cmを測る。色調は赤褐色を呈し、胎土には少量の雲母、砂粒を含んでいる。

３・７は地山直上（23地点）の出土。４・６は包含層（遺構面直上）からの出土。５は包含層中からの出土である。

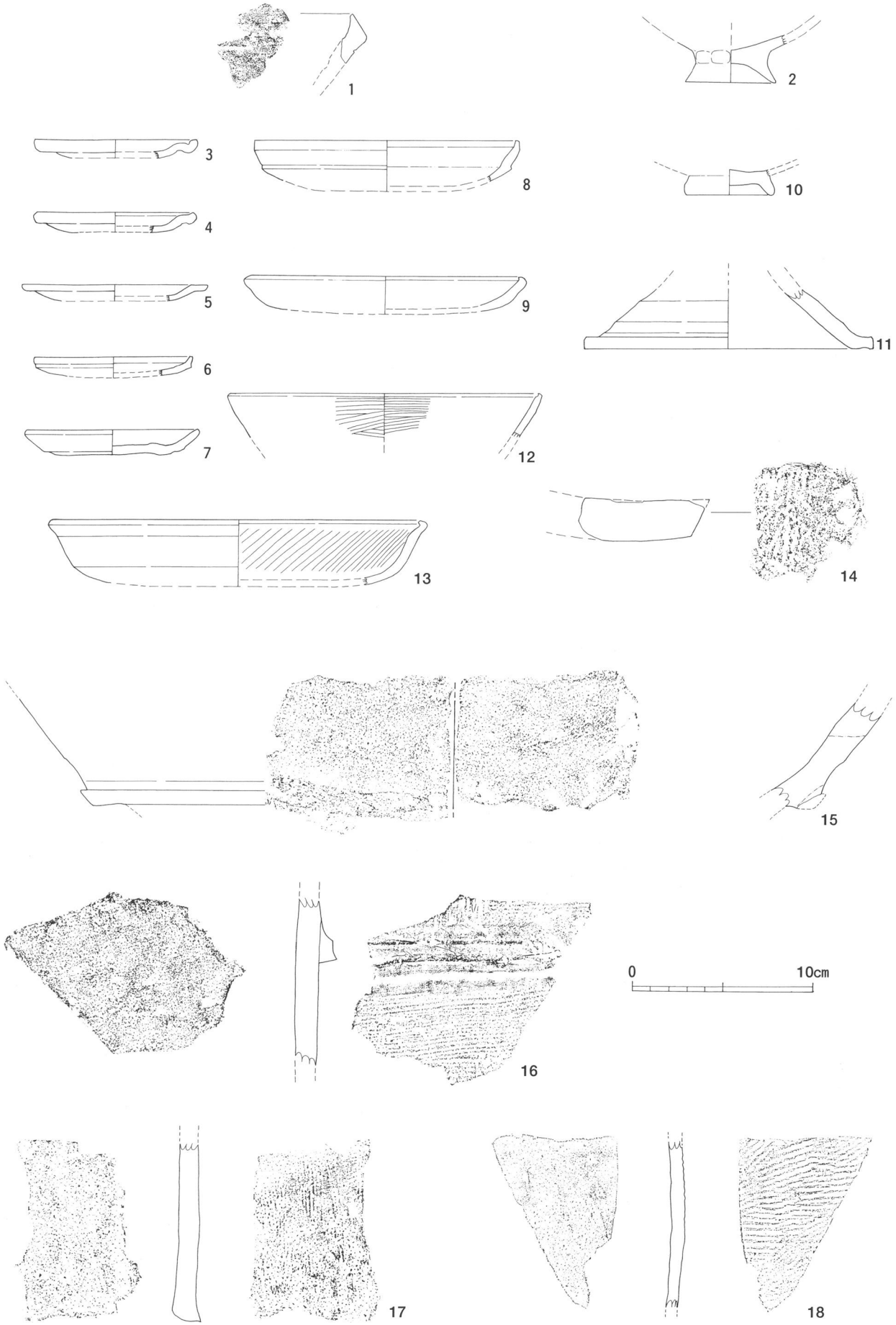


図 5　長楽遺跡第 3 次調査出土遺物

８は復元径14.7cm、復元器高2.8cmを測る。色調は赤褐色を呈し、胎土に雲母を含んでいる。外面はケズリ調整。口縁端部が垂直に近く立ち上がる。包含層（遺構面直上）からの出土。

９は復元径15.6cm、復元器高2.1cmを測る。色調は赤褐色を呈し、胎土に砂粒を含んでいる。調整はナデで、口縁端面にはケズリが見られる。包含層（遺構面直上）からの出土。

11は高坏の脚部。基底部復元径は16.0cmで、残存高3.2cmを測る。暗褐色を呈し、胎土は細かい。包含層中からの出土。

13は坏で、平城Ⅲ期に該当する坏ＡⅠに該当するものか。復元口径21cm、復元器高3.7cmを測る。内面にはナナメ方向の暗文が認められる。色調は赤褐色を呈し、焼成は良好である。素掘り溝（遺構番号１）からの出土。

瓦（図５－14）

１点のみ掲載した。厚みが2.3cmで、焼成が良好なものの赤褐色を呈し軟質である。胎土に径２～３㎜の砂粒を含む。端面をケズリにより整えている。凸面にタテナワが見られるが、凹面の調整は磨耗により不明である。排土からの出土。

瓦器（図５－12）

破片は複数出土しているが、図化できた１点のみを掲載した。

12は、復元口径17.4cmで器高は４cm以上と推定される。灰色を呈し内外面ともに暗文が認められる。素掘り溝（遺構番号４）からの出土。

鉄滓（図版１・２－21）

包含層中からの出土。

（４） まとめ

調査地においては中世には耕作地となっていたようであるが、その西側の長楽寺伝承地や春日神社周辺に古墳があったようである。古墳の時期は出土埴輪と特徴から、大塚山古墳に次ぐ時期のものと考えられ、現在８基が残っている大塚山古墳群の周辺にはさらに多くの古墳が存在したものと推測される。

また、今回の調査では縄文時代後期と考えられる土器やサヌカイト片が出土しており、調査地西側の微高地上には縄文時代の遺構も存在する可能背がある。長楽遺跡の北側の宮堂遺跡でも縄文時代晩期の土器や石器が出土しており、宮堂遺跡に先行する集落の存在なども想定できよう。

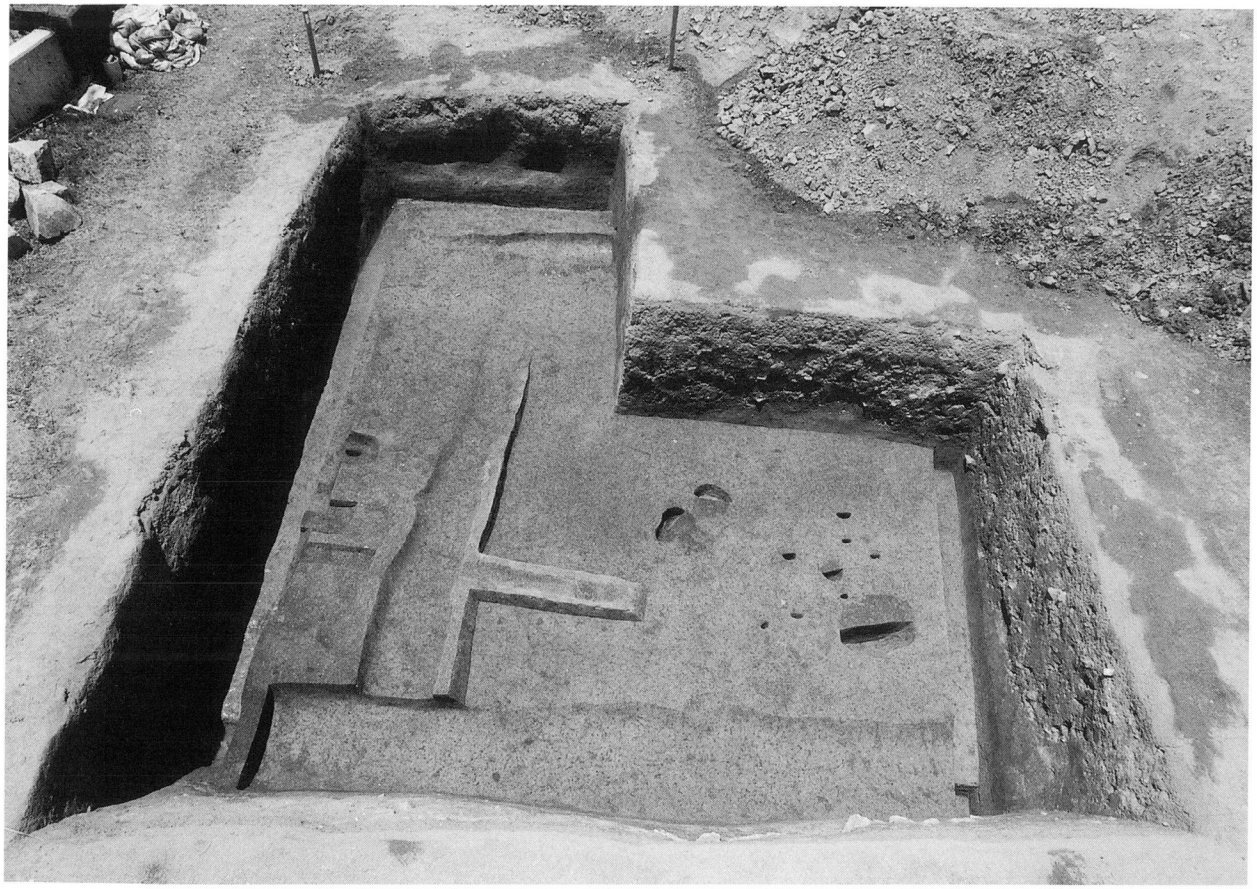
調査地（長楽62番地５）の西側隣接地（同62番地１）は本来さらに西側の土地（同71番地１）と同一の面であったが、第二次世界大戦後に南の道路を整備するために土取りが行われ、現在のような形状のなったそうである。調査地もその際に土砂採取をされたのではないかとの話もあったが、包含層の状況から見る限り、そのような新しい時期の土砂採取は調査地には及んでいなかったようである。

図版1　長楽遺跡第3次

①発掘調査前（東南から）　中央から左奥：春日神社、右奥：川合大塚山古墳

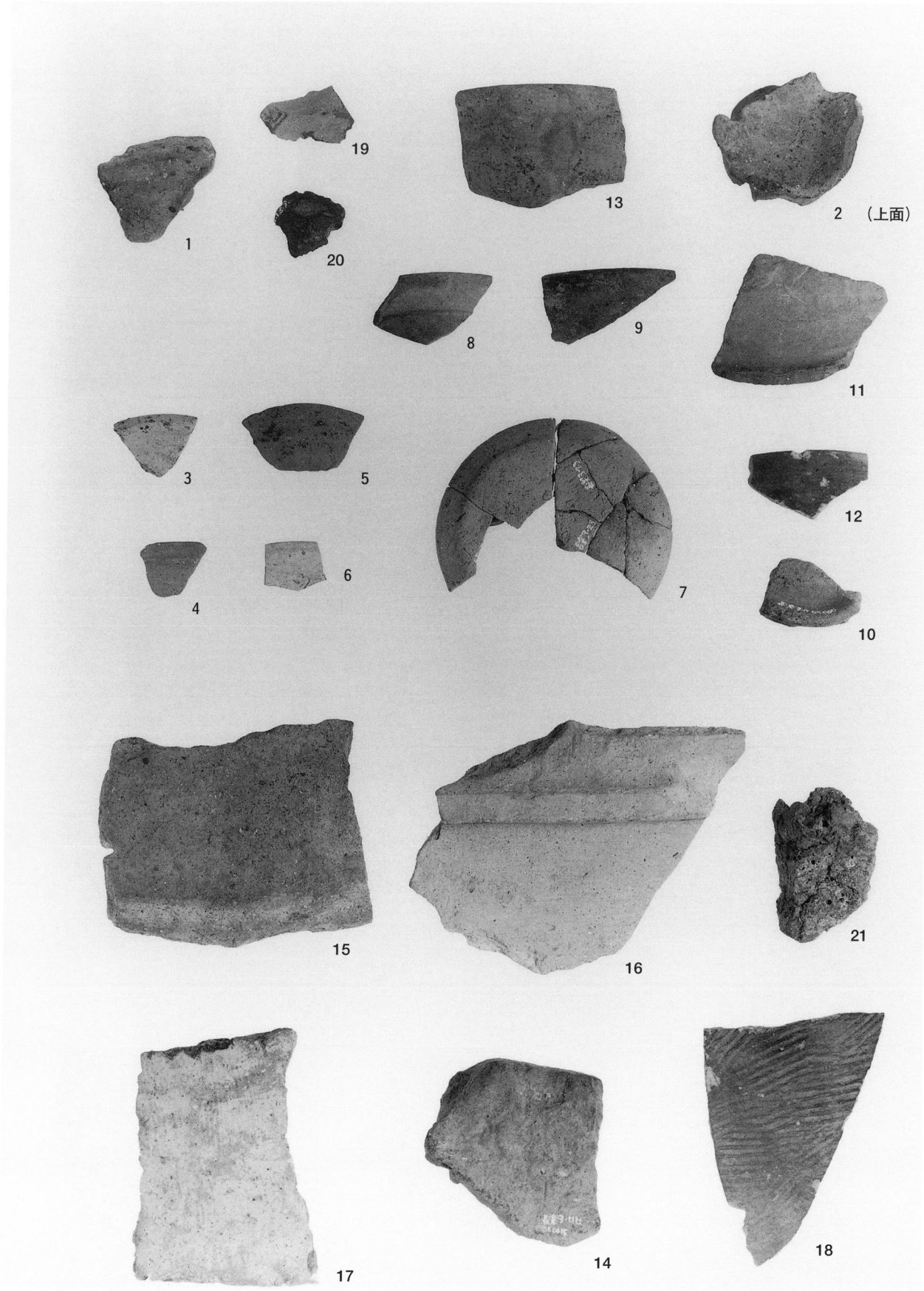
②遺構検出状況（東から）

図版 2　長楽遺跡第 3 次



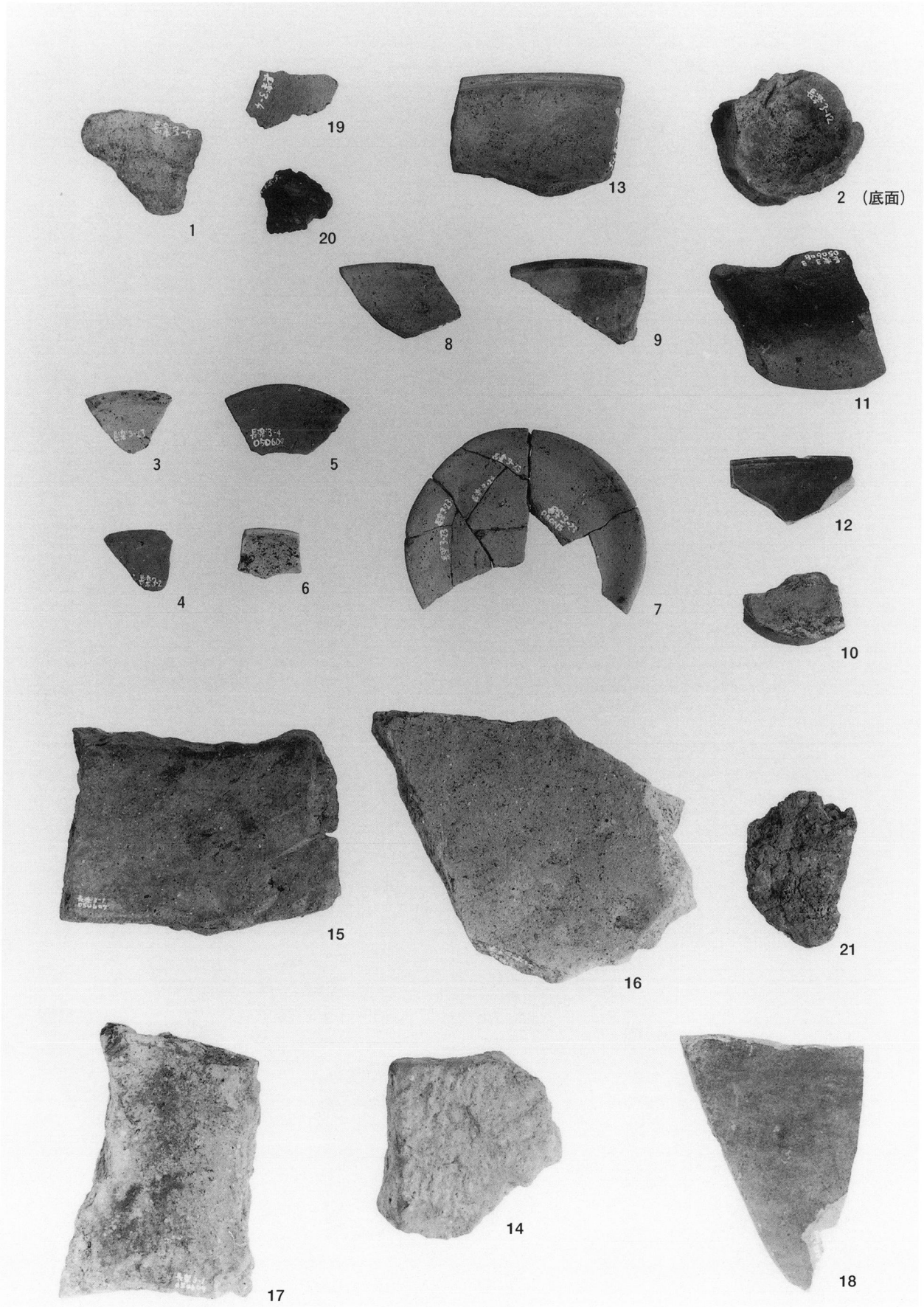
①完掘状況（東から）

②完掘状況（北から）



出土遺物（外面）

図版 4　長楽遺跡第 3 次



出土遺物（内面）

ふりがな	ちょうらくいせき　さん
書名	長楽遺跡Ⅲ
副書名	
巻次	
シリーズ名	河合町文化財調査報告
シリーズ番号	第18集
編著者名	吉村公男
編集機関	河合町教育委員会
所在地	〒636-8501　奈良県北葛城郡河合町池部１－１－１　℡0745-57-0200
発行年月日	西暦　2006年３月31日

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
長楽遺跡 (ちょうらくいせき)	奈良県北葛城郡 (ならけんきたかつらぎぐん) 河合町 (かわいちょう) 大字長楽 (おおあざちょうらく)	29427	035	34 34 59	135 44 50	2005年６月７日 ～６月17日	34	緊急調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
長楽遺跡	遺物散布地	縄文～近世	溝	縄文土器・土師器・須恵器・瓦器・陶磁器	長楽遺跡内で初めて縄文土器が出土。

長楽遺跡Ⅲ

－河合町文化財調査報告　第18集－

2006年３月31日

編集　河合町教育委員会

発行　奈良県北葛城郡河合町池部1-1-1
TEL　0745-57-0200

印刷　株式会社明新社